

年頭のご挨拶

理事長 信岡正郎



組合員の皆様新年明けましておめでとうございます。

お健やかに平成17年の新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年中に賜りました当組合へのご支援・ご協力に対しまして衷心より厚くお礼申し上げますとともに、なお本年も倍旧のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昨年は、台風、水害、地震など自然災害が多発し、多くの犠牲者や甚大な被害があり、被災された方々に対しまして心からお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興をご祈念申し上げる次第です。

一方日本の経済は、多くの上場企業が中間決算で過去最高益を確保したり、銀行の不良債権も片付きつつあり、本格的な回復基調の年であったように思われます。その中でも重厚長大産業である鉄鋼業界がここにきて最高の利益を上げています。我々も成熟産業の代名詞の業界ではありますが、新たなビジネスモデルの確立などやり方によっては、やがて春が来るのではないかと期待しております。

当地の主力商品であります実用衣料は、年度当初より底堅い需要に支えられ、順調に推移していましたが、天候異変によるシーズン商品の売上不振に悩まされた年でもありました。

今年は、昨年からの課題であります原材料高騰による製品値上げ問題を業界上げて解決しなければなりません。年明けには、中国の方から「輸出税」も新たに加わり、頭の痛い問題を抱えておりますが、お客様にも何らかのご理解をいただかなければならないと思っております。

商売のやり方もインターネットや携帯電話でやりとりする時代になる中で、当産地では、うまく経営者の若手へのバトンタッチが進み、この移り代わりの激しい時代に立派に対応していける産地になるだろうと確信しております。

戦後60年経つ今日、古い悪しき習慣やしがらみのない若い経営者が中心となって限られたマーケットのもと、この産地を盛り上げ、生き残っていけるよう力を発揮されることを大変期待しております。

当組合といたしましては、若い経営者が移り変わる時代の中で、様々な問題や課題が提起されることにはいかに的確に対応し、産地を活性化するためにコラボレーションなどの活動を通してお手伝いをさせていただきたいと考えております。そして国や県の施策がそれぞれの自助努力を求める方向に変わる状況において、これからの組合活動は、様々な情報を様々な分野から収集し、それを組合員の皆様方と一緒に挙げて具体化することが最も重要になるだろうと考えております。

最後になりましたが、組合員の皆様方のご健勝とご活躍そして御社の益々のご発展をご祈念申し上げますとともに、当組合に対しまして旧に倍するご支援・ご協力を重ねて切にお願い申し上げます、年頭に当たってのご挨拶といたします。

(新年互礼会挨拶から引用)



平成17年新年互礼会開催



恒例の新年互礼会が、1月7日(金)午後4時より当組合会館3階大会議室において開催されました。

今回の新年互礼会も昨年と同様、平県議会議員様をはじめとした来賓の方々や素材メーカーや商社及び服飾資材関係の業者の方もお招きして開催しました。

互礼会は、まず佐藤専務理事の司会で始まり、信岡理事長が大勢の参加者に対して年頭の挨拶を述べられました。

次に来賓及び参会者を代表して平広島県議会議員が「今年も広島県アパレル工業組合で新年互礼会の挨拶できることを光栄に思う。

2006年より日本の人口は減少します。ある本を昨年読んだが、その中で印象に残ったことがある。それは、人口の減少で最も影響を受けるのは、首都圏であり、若者が集中していることから急速な高齢化が進むとのこと。来年から人口が減るということで、今後どうということが起きるのか様々に検討する準備の年が今年ではなかろうかと思う。

この地域においては、アパレル工業組合の動静が鍵を握っており、組合員の皆様方の一層の発展を期待している。」との挨拶がありました。

当日は、立錐の余地がないほど多くの参会者であふれ、終始にこやかに新年の賀詞が交換され、最後に後藤克公副理事長の中じめの挨拶と一本締めで、盛会裡に終了しました。なお、参加者は、総勢約180名でした。

《互礼会懇親風景》

